



夏の大会に向けて、各部活動・クラブチームの決意表明 Part I

定期考査が終わり、各部活動やクラブチームでは夏の大会に向けて練習を再開しました。中体連大会・コンクール・クラブチーム選手権など、夏は各種目で最も大きな大会が目白押しです。これらの大会にかける生徒たちの思い入れは大きく、9年生にとっては中学校生活最後の大会になります。そこで、各部活動やクラブチームの代表者に大会への意気込みを書いてもらいました。(なお、代表者には県立入試の国語の大問4を想定し、200字以上240字以内でまとめてもらいました。)

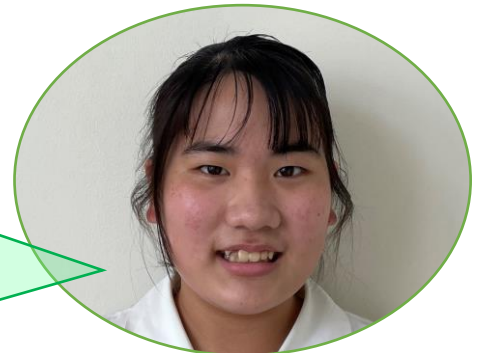


【 サッカー部 松本 慶人さん 】

こんにちは、サッカー部です。今年の中体連の目標は、筑前大会出場です。去年はあと一步のところで行けずとても悔しい思いをしたので、今年は筑前に行けるように頑張りたいです。サッカー部の中体連は始まるのが早く、残り1・2週間しか練習期間がありません。だから、一日一日の練習がとても大事になります。試合のときにいいプレーができるように練習のときから大きな声を出し、集中して頑張ります。最後に悔いの残らない試合をしたいです。応援よろしくお祈いします。

【 吹奏楽部 馬渡 帆華さん 】

こんにちは。吹奏楽部部長の馬渡帆華です。私達吹奏楽部は7月に行われるコンクールに向けて日々練習を頑張っています。目標は筑前大会を突破し、支部大会に進むことです。そのために、これから一人一人が大きい声で返事をする事や自分で考えて行動できるように頑張ります。そして、自分に何が必要なのかを考えてそれに合った練習をしていきます。基礎練習が甘いと思うので、しっかり基礎も強化して本気でコンクールに挑みます。一生懸命頑張りますので、応援よろしくお祈いします。



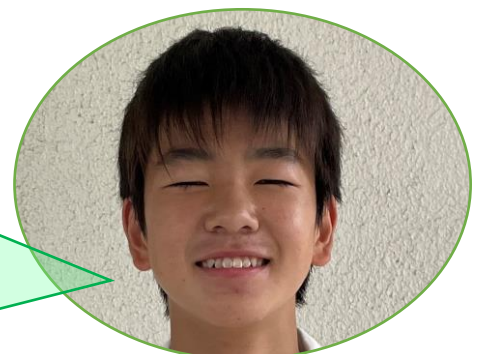
【 女子バスケットボール部 上谷 桜花さん 】

こんにちは。女子バスケットボール部です。私たちの中体連での目標は、筑前大会に出場することです。そのためには、チームのスローガンである「常に全力」を忘れずに挑まなければ実現することはできません。バスケ部のみんなと一日でも長く一緒にプレイできるように一日一日を大切に練習していきたいです。そして悔いの残らない最後の日を迎えるように、後輩たちの心に何かを残して引退できるようにがんばりたいです。応援よろしくお祈いします。



【 男子バスケットボール部 渡部 陽斗さん 】

こんにちは。男子バスケットボール部です。僕たちの中体連の目標は、筑前大会に出場することです。一昨年は、中体連そのものがなくなり、昨年は筑前大会にも出られず悔しい思いをしました。だから今年こそ、先輩方の思いをこの中体連にぶつけて挑戦します。しかし、今のままでは力不足なので、もっと質の高い練習に変え、チーム一丸となり声を出して、目標に一步でも近づこう努力していきます。9年生は最後の大会になるので、悔いの残らない試合にしていきたいと思います。応援よろしくお祈いします。



8・9年生の進路講演会、7年生の授業参観を行いました



9年生の進路講演会
九州国際大付属高校の小林先生講演



8年生の進路講演会 福岡工業大附属
城東高校の松尾教頭先生講演



7年生の学校の日授業参観
宮崎先生社会科地理的分野の授業公開

6月11日(土)、「学校の日」として学校公開を行いました。8年生と9年生は「進路講演会」を予定通り開催し、たくさんの保護者の皆様にも生徒と一緒に高校の先生の講演を聞いていただきました。7年生は予定していた「クリーンアップ作戦」(小学6年生・地域の方との地域清掃活動)が雨天のため中止になり、参観授業に代替えとなりました。

9年生の進路講演会では、九州国際大学付属高等学校の小林剛志先生を招き、高校入試の話はもちろん、人生には様々な選択肢があるという話を聞きました。「学びの世界は才能の世界ではなく努力がものをいう公平な世界だ」。「受験勉強はフライングもスピード違反もない」。「勉強もスポーツも本番前だけでなく本番までに何をしたか」。「中学校の定期考査は健康診断」。など今の9年生にとって胸に響くフレーズが多かったのではないのでしょうか。

8年生の進路講演会では、福岡工業大学附属城東高等学校の松尾智晴教頭先生を招き、高校入試を見すえた長期的な進路設計について話していただきました。現在の高校入試の多様な形態や、新しいタイプの入試問題への対応、正解が一つでない問題に対して手持ちの知識を総動員して回答する力の必要性など、今から知っておくべきことがたくさん話されました。また、受験で問われるのは準備力であり、高校入試の問題の50%以上は教科書にのっている基礎基本であることなど、9年生になってはじめて知るのではなく、今からやるべきことが多くわかりました。さらに、松尾先生は、高校で身に付けたい力の一番は「夢を描くチカラ」だとおっしゃっていました。

高校の先生方、お二人の講演に共通していることは、進路は高校入試だけを考えるのではなく、人生そのものとして考えるべきことだということです。また、入試直前に考えるのではなく、できるだけはやくから自分の進路を自分のこととして考えることが大切だということです。

講演が終わった後、二人の高校の先生は校長室に戻ってこられて同じことを話されました。河東中生の集中力が切れない聞く姿勢のすばらしさ、真剣さです。近年回った中学校の中で、生徒の様子が一番良かったと話して帰られました。

以前とは違って、高校入試も就職も大きく様変わりし多様化・複雑化してきました。かつてのように中学生の進路は高校受験だけを考えればよいという時代ではありません。進路を考えると、高校入試も含めた自分の生き方そのものを考え、人生設計を考えなければなりません。

今回の進路講演会を企画してくれた河東中の先生方も二人の高校の先生方も思いは同じです。まとめると、進路を行き当たりばったりに考えずはやめに考えることが大切。将来や進路に夢や目標を持つこと。夢や目標の実現のため、準備をおこたらず努力を重ねること。そして、河東中生は素晴らしい生徒であること。